

豊川小だより

2月号

梅がつなぐご縁

校長 中村 順子

ホームページ
QRコード



令和7年2月1日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

先月末に若干暖かい日があったとは言え、まだまだ厳しい寒さが続いています。例年以上に春の暖かさが待たれる今日この頃です。そのような中、リノベーション工事真っ最中の豊川小にも、小さな春の気配が感じられるようになりました。春の樹木で一番先に花を付けるのがウメと言われていますが、豊川小にある2本のウメの木にも、1本は淡いピンク、もう一本は白い花びらが覗き始めています。まもなく紅白のかわいらしい花が咲くことでしょう。

*

北区は昨年11月に、和歌山県和歌山市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。これは、北区または和歌山市のいずれかの地域で大規模な災害が発生した場合等において、双方の自治体が協力して災害応急対策や復旧対策を円滑に行うことを目的としているそうです。

和歌山と言えば「紀州」。豊川小の礎の碑がある近隣の紀州神社は、その名の通り紀州和歌山にある「伊太祁曾神社」を起源としています。紀州神社には、今から700年前、水害が多くあったこの地に「水の神様」をお祭りするために勧請したという記録が残っています。

そのようなご縁もあり、豊川小はこのたび、「和歌山市並びに和歌山県との交流」に向けて一步を踏み出します。先日には、和歌山県・市の担当の方と、交流できる事業の検討を始めたところ、和歌山の特産品である「梅」をきっかけとした交流の計画がもちあがりました。

手始めに、3月の給食に和歌山県産の梅を使ったメニューを提供します。そしてまずは事前学習として、梅についての出前授業をお願いする運びになりました。まさしく、「梅がつなぐご縁」ということになります。

今後交流が本格的になった際には、梅を始めとした和歌山県産の特産品を活用した授業や、和歌山県・市と北区のつながりを学ぶ授業なども進めていきたいと考えています。

*

以前よりお伝えをしていますように、今年の1月15日には、豊川小学校創立150周年記念式典が挙行されます。記念事業の一つとして和歌山県・市との交流を進めていくことで、豊川小学校の児童が、自分が住む豊島のまちにさらに愛着をもち、縁のある和歌山についても関心を深めていくことを期待しています。



4年社会科見学

1月16日(木)に浅草、水の科学館、中央防波堤埋立処分場に社会科見学に行きました。社会科や総合的な学習の時間と関連付けながら、「浅草のまちがどのようににぎわいを取り戻したのか」「水は誰がどのようににきれいにしているのか」「私たちが出したごみはどのように処分されているのか」、それぞれの課題を解決するために3つのスポットを見学しに行きました。自分が見たことを、熱心にメモをとり、疑問に感じたことをインタビューするなど、それぞれの課題を自分事として考えながら、学習に取り組む姿が見られました。今回学んだことを自分の生活に「生かす」ことができるよう支援していきます。

(4年担任)

